

自然災害を防ぐ

関連項目	I 呉市で起こりやすい自然災害を知る	A 自然災害の種類を知る（土砂災害、洪水災害、高潮災害） B 土砂災害の起き方を知る C 洪水や高潮の起き方を知る D 土砂災害の特徴を知る E 洪水や高潮の特徴を知る			
指導する学年	5 学年	教科・領域	社会	時数	1 / 5
目 標	近年日本で起こった自然災害について資料から読み取ったことを、白地図や年表に整理することができる。				
防災教育の視点	土砂災害、洪水、高潮等、日本で起こった自然災害について調べる。				
指 導 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県の砂防写真館平成 11 年 6. 29 豪雨災害写真集崖崩れ災害編写真 ・ 広島県の砂防写真館平成 22 年 7 月豪雨による広島県の土砂災害写真 ・ 高潮・津波災害ポータル広島平成 16 年台風 16 号、18 号による高潮被害写真 ・ 高潮・津波災害ポータル広島平成 3 年台風 19 号による高潮被害写真 ・ 呉市防災センター「防災知識」台風 18 号呉市の被害写真 ・ 呉市防災センター「防災知識」風水害、地震 				
学習の展開	学習活動		指導上の留意点		
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本や呉市で起こった自然災害について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 呉市で起こった自然災害 ・ 東日本大震災 ・ 豪雨 		<ul style="list-style-type: none"> ★ 自然災害の被害の大きさに気付かせるとともに、人々の生活や社会に大きな影響を与えたことを感じとらせる。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> めあて 日本で起こった自然災害について調べ、日本地図にまとめよう。 </div> ○ 東日本大震災や日本で近年起こった自然災害を調べて地図や年表にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害の発生場所 ・ 自然災害の種類 ・ 自然災害の発生時期 ○ 自然災害の多さから、生活への影響やその被害の防止について関心を高め、学習問題をつくる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害の種類についてまとめるときには、それぞれの災害の特徴を捉えさせる。 ○ 白地図や年表形式にまとめさせることにより、日本の国土には自然災害が起こりやすいという特色があることに気付かせ、学習問題につなげる。 		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> まとめ 日本では、全国で様々な自然災害が頻繁に発生しており、人々の命を奪ったり、家や建物を破壊し、生活を奪ったりすることがある。 </div> 				

書き手の意図を考えながら新聞を読もう「新聞記事を読み比べよう」

関連項目	I 呉市で起こりやすい自然災害を知る	B 土砂災害の起き方を知る D 土砂災害の特徴を知る
指導する学年	5 学年	教科・領域 国語 時数 6 / 6
目 標	新聞から書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取ることができる。	
防災教育の視点	平成 26 年広島市土砂災害の新聞記事をもとに、土砂災害の起き方を知る。	
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・平成 26 年広島市土砂災害の新聞記事 	
学習展開	学習活動	指導上の留意点
導入	○ 平成 26 年 8 月 21 日の朝刊を読んで、気付いたことを発表する。	○ 大きな災害が広島市を襲ったことを知り、新聞記事がどのような内容を伝えているかを話し合わせる。
展開	○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 平成 26 年広島市土砂災害の新聞を読み、書き手の意図や表現の工夫を整理しよう。 </div> ○ 各紙の見出しや資料、キャプションに書かれていることを比べる。	○ 新聞社が各紙、共通して土石流の災害の恐ろしさをつけている事に気付かせる。
まとめ	○ 1 か月後の新聞を見て、災害当時と変わったことを読み取る。 ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめ 災害の恐ろしさや、災害から復興する人々の思いなどを短いことばで見出しに表し、読み手に印象付けようとしている。 </div>	○ 大きな爪痕を残した広島市土砂災害について、どのように伝えているのかということなどを確認する。 ★ 広島市でも災害について現地の人々は大変苦しんでいることや周りから多くの援助があったことを確認し、それらを伝える新聞社の工夫を振り返らせる。

※土砂災害…降雨，地震及び火山噴火等による土砂の移動が原因となる災害。

流れる水のはたらき

関連項目	I 呉市で起こりやすい自然災害を知る	B 土砂災害の起き方を知る C 洪水や高潮の起き方を知る
指導する学年	5 学年	教科・領域 理科
目 標	雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地のようすが大きく変化する場合があることを理解する。	
防災教育の視点	長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による洪水について知る。	
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> 平成 11 年 6. 29 豪雨災害（速報版） 子ども資料集 	
学習の展開	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 流れる水にはどんなはたらきがあったか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 流れる水のはたらきによって、土地がどのように変わるかを振り返らせる。 ○ 「侵食・運搬・堆積」といった用語を用いて整理させる。 ○ 川による土地の変化には長い年月が必要であることを確かめさせておく。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 川は、どんなときに、土地の様子を変えるか調べよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 川の様子が大きく変わる時を予想する。 ○ 実際に人工の流れをつくったモデル実験で、「流れる水の速さ」や「水の量」を変えて、土地（砂）がどのように様子を変えるか実験で調べる。 ○ 川の増水と、増水によって起こる災害やそれを防ぐ工夫について資料で調べる。 ○ 調べた結果を、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの経験や実験、観察を想起して考えさせるようにする。 ○ 事前に図書室で、本を探したり、地域の資料館などから資料を取り寄せたりしておく。 ○ 近くの川の学習ポイントを調べておく。 ○ 子ども資料集の「洪水を防ぐ一渡良瀬遊水地」を活用する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川の様子が変わると土地が変化することと土砂災害はどのように防がれていたのか整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 雨の降り方によって、川の流れる水の速さや水の量が変わり、増水した時に土地の様子を大きく変化させることがある。 土砂災害を防ぐために、川岸に堤防をつくったり、川の近くに水をためる遊水地をつくったりし、川の水が急に増えないように工夫されていた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 教科書の写真や「6. 29 土砂災害」の写真、災害時の V T R など活用し、流れる水が及ぼす影響についてとらえることができるようにする。 ○ 川の災害を防ぐための工夫を調べ、次時の学習に生かすようにする。

※増水…平常の水位よりも水かさが増すこと。

天気の変化

関連項目	I 呉市で起こりやすい自然災害を知る	B 土砂災害の起き方を知る C 洪水や高潮の起き方を知る
指導する学年	5 学年	教科・領域 理科
時数	4, 5, 6 / 7	
目 標	天気の変化と気象情報をまとめた結果を関係付けて考察し、雲の動きと天気の変化について自分の考えを表現することができる。	
防災教育の視点	長雨や集中豪雨、台風等の気象情報から土砂災害、洪水高潮について知る。	
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁ホームページ(各種データ・資料：過去の気象データ検索) 子ども向け防災啓発DVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」(気象庁) 	
学習の展開	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天気を変化させている原因について話し合う。 ○ めあての確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨を降らす雲が、雨を降らせながら動いていることに気づかせる。 ○ 自分たちの地域だけでなく、広い範囲の雲の様子に目を向けさせる。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 雲の動きによって天気は、どのように変化していくか調べよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天気を予想する方法を考え、天気の変化を調べる計画を立てる。 ○ 雲の動きの情報を集める。 ○ 調べたことをもとに雲の動きを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨を降らせる雲や一面に広がるような雲の広い範囲の動きを調べれば、天気の変わる様子が分かることに気付かせる。 ○ インターネットやテレビなどで、雲の動きを調べればよいことを思い出させる。 ○ 日本列島に低気圧が近づくなど、天気の変化がよく見られるような日から始める。 ○ インターネットの雲画像は、コンピュータに保存させる。 ○ 雲の動き方が分かるような記録の仕方を工夫させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天気の変化のきまりをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>まとめ 雲はおよそ西から東に変化していくので、天気も西から東へ変化していく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集中豪雨から身を守る方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福岡・大阪・東京・札幌の位置関係を確認し、雲画像やアメダスの情報と照らし合わせて、大まかな天気の変化のきまりをとらえさせる。 ★ 気象庁が作成した防災啓発DVDを活用して、集中豪雨から身を守る方法を考えさせる。

※集中豪雨…同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mm から数百 mm の雨量をもたらす雨。

けがの手当

関連項目	II 対処方法を考える		C 土砂災害から身を守る方法を知る		
指導する学年	5 学年	教科・領域	体育 保健領域	時数	6 / 6
目 標	けがをしたときには、けがの種類や程度等の状況を速やかに把握して処置することが必要なことを理解できるようにする。				
防災教育の視点	災害でのけが人が出たときの対処の仕方について考える。				
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・けがの手当の仕方の掲示 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがをしたときの経験を振り返り、今までどのようにしていたかを話し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にアンケートをとり、けがをしたときの経験を把握する。 ○ 今までのけがに対する対応は、正しかったか、なぜそのような対応をしていたのかを考えさせる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて けがをしたときには、どうすればよいのか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ けがをしたときに、必要な状況判断のポイントについて話し合う。 ○ 頭を打つ、出血がひどい、意識がないなど、大きなけがの対処について重要なことを確認する。 ○ 自分でできるけがの手当について、教科書を見ながら理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害によるけがにはどのようなものがあるか予想する。 ★ できるだけ速やかに、けがの種類や程度を把握し、処置することが必要なことを強調する。 ○ 大きなけがのときは、動かさずに大人に連絡して、医師に診てもらおうことを確認する。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 ・自分でできる簡単な手当の仕方をまとめよう。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がけがをした場合と友達がけがをした場合の両方の手当ができるようにする。 	

水泳運動「安全確保につながる運動」

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	D 洪水や高潮から身を守る方法を知る
指導する学年	5 学年	教科・領域 体育
		時数 1, 2 / 2
目 標	水着での泳ぎと比べて、着衣のまま水に入ったときの動きにくさを知るとともに、背浮きや浮き沈みをしながら、タイミングよく呼吸したり、手や足を動かしたりして、続けて長く浮くことができるようにする。	
防災教育の視点	洪水や高潮から身を守るために、着衣のまま水の中に入ったときの特性を知る。	
指 導 資 料		
学習の展開	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方について身に付けよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ バディで並ぶことができるようにする。 ○ 水中で自己の安全を確保するための学習であることを確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着衣のまま水に入り、泳ぎの難しさを体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・バディを組み、一人が水の中に足から入水する。 ・プールの横をクロール、平泳ぎなどで泳ぐ。 ○ 10～20秒程度を目安にした背浮き <ul style="list-style-type: none"> ・ビート板やペットボトルを抱え、背浮きの姿勢を維持する。 ・息を一度に吐き出し呼吸する。 ・背浮き姿勢を崩さないように、手や足をゆっくり動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バディ同士でも安全が常に確保できるようにする。 ○ バディで教え合うようにさせる。 ○ 補助具を胸に抱えたり、仲間に頭や腰を支えてもらったりして続けて浮く練習をさせる。 ○ どのように浮いたり、泳いだりするのが合理的であるか体感させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 着衣のまま水に落ちた場合、動いたり泳いだりすることは難しい。 水の事故に遭ったときには、水に浮いて待つことが大切である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 着衣のままの水に入ったときの泳力を客観的に知ることができる。

はじめてみよう クッキング

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	F 災害に対する日頃の備えについて知る			
指導する学年	5 学年	教科・領域	家庭	時数	2 / 8
目 標	調理の手順や調理用具の取り扱い方を理解させる。				
防災教育の視点	用具や食品の安全な取扱方が分かり、災害に対する備えができる。				
指 導 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・NHKそなえる防災動画で学ぶ避難生活 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ どのようなことに気を付けて調理しているのかを家の人に聞いておく宿題を出しておき、発表させる。				
展開	○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 調理の手順や調理用具の取り扱い方をまとめよう。</div> ○ 調理の基本的な流れ（計画から振り返り）の手順を知る。 ○ 調理に必要な用具・計量器の名称、使い方を調べる。 ○ ゆでる調理をするときに、どのような用具が必要かを考える。 ○ 環境を考えた後片付けの仕方を考え発表する。			○ ガスコンロの特徴と取り扱い方が分かるようにする。 ○ 家庭での調理の体験を出し合い、安全や衛生に気を付けることの大切さを理解できるようにする。 ★ 災害時でも困らないように用具や食品の安全な取り扱いができるようにする。	
まとめ	○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとめ 安全に効率よく調理するために、調理の手順を考え、調理用具を正しく扱うことが大切である。</div>				

食べて元気に「ご飯とみそ汁をつくろう」

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	F 災害に対する日頃の備えについて知る			
指導する学年	5 学年	教科・領域	家庭	時数	7, 8 / 1 1
目標	ご飯とみそ汁の調理計画を立てることができるようにする。				
防災教育の目標	非常時でのご飯とみそ汁を調理することができる。				
指導資料	・教科書				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご飯をおいしく炊くコツを家の人に聞いておく宿題を出しておき、発表させ、ご飯の炊き方につなげる。 ○ めあての確認をする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 水の分量や加熱時間が関係することに気付かせる。 	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて ご飯とみそ汁の調理計画を立てよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ご飯の炊き方を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・水をよく吸水させる。 (水は米の体積の 1.2 倍) ・強火→中火→弱火の順にたく。 ・火を消し、蒸らす。 ○ みそ汁の作り方を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・実の切り方を考える。 ・だしをとる。 ・実を煮る。 ・みそを入れ、火を消す。 (みそ汁は煮過ぎると味がこくなり、風味が損なわれる。) ○ ご飯とみそ汁の作り方の計画を立てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ★ 器具がなく、水の量が正確にはかれない場合は、水の量は米から指の第 2 関節まで水を入れると良いことを知らせる。 ○ 点火し沸騰するまでは強火、沸騰したら中火、水がひいてふたが動かなくなったら弱火にすることを、図を使いながら理解させる。 ○ みそ汁の実の材料には地域でとれる材料や季節のものを入れるなど工夫することをおさえる。 ○ 材料によって火がよく通る切り方を考えさせる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 				

割合

関連項目	Ⅲ 地域の防災対策を知る	A 過去にあった地域の災害について知る			
指導する学年	5 学年	教科・領域	算数	時数	6 / 1 4
目標	百分率の意味及び百分率と小数倍との関係について理解する。				
防災教育の視点	広島県の土砂災害の統計データから割合の意味について理解することができる。				
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> ・気象庁ホームページ(各種データ・資料：過去の気象データ検索) ・平成 11 年 6. 29 豪雨災害 (速報版) 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 問題文を読んで、題意をつかみ、計算する。			○ 割合を求める問題であり、既習事項であるから、理解が十分でない児童への個別指導を行う。	
展開	○ めあての確認をする。			○ 百分率の用語と 1 % という表記について知らせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 百分率の意味について考えよう。 </div>			○ 割合を表す小数と百分率との関係は、数直線を参考に考えさせる。	
まとめ	○ 学習のまとめをする。			○ 練習問題を通して、小数を百分率で表すには 100 倍すればよく、百分率を小数で表すには 100 で割ればよいことに気付かせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 百分率は、もとにする量を 100 とした割合の表し方である。割合の 1 は、百分率で表すと 100% である。 </div>			★ 練習問題を通して、平成 11 年 6. 29 豪雨災害について理解させる。	
	○ 練習問題をする。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 呉市では、平成 11 年 6 月 29 日に、大雨による土砂災害が起きました。この日は、184mm の雨が降りました。6 月の平均降水量は、約 200mm です。6 月 29 日の降水量は、6 月の平均降水量の何% になりますか。 $184 \div 200 = 0.92$ 答え 92% </div>				

※降水量…雨と雪の場合を一括して扱うときに用いる。

文章を読んで自分の考えを持とう「イースター島にはなぜ森林がないのか」

関連項目	I 呉市で起こりやすい自然災害を知る	D 土砂災害の特徴を知る E 洪水や高潮の特徴を知る
指導する学年	6 学年	教科・領域 国語 時数 6 / 6
目 標	文章の要旨や筆者の主張に対する自分の考えを述べるができる。	
防災教育の視点	土がむき出しになると、土が流れやすくなって土砂災害が発生することを知る。森林は、水を蓄える働きがあることを知る。	
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> 平成 11 年 6. 29 豪雨災害写真集崖崩れ災害編写真 平成 22 年 7 月豪雨による広島県の土砂災害写真 	
学習の展開	学習活動	指導上の留意点
導入	○ めあての確認をする。	○ 本時のめあてを確かめ、文末表現や段落どうしのつながりを意識しながら全文を音読し、要旨をまとめるように指示する。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 全体の要旨や筆者の主張に対する自分の考えを交流しよう。 </div> ○ 全文を読んで要旨を確認する。 ○ 結論部分にある筆者の主張を確かめる。 ・ 今後の人類存続は、子孫に思いをめぐらす文化を築けるかどうかにかかっている。	○ 結論部分の接続後と文末表現に着目させ、3つの段落の働きを押さえながら、最後の一文が筆者の最も述べたい考えであることをとらえ、文章の要旨をまとめさせる。
まとめ	○ 学習のまとめをする。	★ 筆者の主張に対する自分の考えを書かせるときには、イースター島の森林消失のような生態系の破壊による情報として、地球温暖化による異常気象で集中豪雨などが起きていることを紹介する。その際、呉市の被害写真を提示することで、児童の経験と知識をつなげさせる。

※異常気象…一般に、過去に経験した現象から大きく外れた現象または状態のこと。気象庁では、気温や降水量などの異常を判断する場合、原則として「ある場所（地域）・ある時期（週，月，季節等）において 30 年間に 1 回以下の出現率で発生する現象」を異常気象としている。

世界の未来と日本の役割

関連項目	I 呉で起こりやすい自然災害を知る	E 洪水や高潮の特徴を知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	社会	時数	4 / 9
目 標	地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国際連合を中心として、様々な努力をしていることを理解する。				
防災教育の視点	海面の上昇で海にしずむ可能性がある国があることを知る。				
指 導 資 料	<ul style="list-style-type: none"> 平成 11 年 6. 29 豪雨災害（速報版） 6. 29 豪雨災害写真集 がけ崩れ災害編 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ①写真資料から環境問題を読み取る。 ②ツバルの人の思いを想像して吹き出しに書く。 めあての確認をする。 			<ul style="list-style-type: none"> ツバルの人の思いを想像させることで、そこでくらす人の思いに寄り添い、解決のための活動を調べる意欲を高める。 	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 世界の人々は、地球の環境を守るために、どのような努力や協力をしているか調べよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 国連や各国政府、NGOなどの活動について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ①教科書の写真や本文、図書資料、インターネットなどを使って、環境を守るための活動について調べる。 自分たちにできる身近な環境問題の取組について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ①呉市でも地球温暖化が原因と考えられる集中豪雨などによる被害が出ていることを知る。 ②ことば「持続可能な社会」を活用して持続可能な社会について考える。 ③自分たちにできる取組を考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ★ 地球温暖化による夏の猛暑、集中豪雨、台風の強大化などの気象現象が呉市でも被害をもたらしていることを、被害写真を提示することで気付かせ、環境問題を自分のこととしてとらえさせる。 	
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界や日本には、現地の人々と協力して環境保全に努めている人がたくさんいる。地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国連などの計画に基づいた様々な努力が必要である。</p> </div>				

速さ

関連項目	II 対処方法を考える	C 土砂災害から身を守る方法を知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	算数	時数	5 / 8
目標	道のりと速さを知って、時間を求めることができる。				
防災教育の視点	土石流が到着するまでの時間を計算で求めることができる。				
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 平成 26 年広島市土砂災害の新聞記事 学校のある地区の地図 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 問題文を読み、問題場面を把握する。			○ 新聞記事や地図からの情報を伝え、関心を高める。	
展開	○ めあての確認をする。			○ 200 km が 80 km の何倍になっているかを考え、立式し答えを求めさせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> めあて 時間の求め方を考えよう。 </div>			○ 自力解決の難しい児童には、数直線図に必要な要素を書き入れさせる。	
まとめ	○ 問題場面に合う式を考え、時間の求め方を考える。			○ 立式の根拠を明確にする。	
	○ 時間の求め方を話し合う。			○ 公式の意味を理解させる。	
	○ 学習のまとめをする。 「道のり÷速さ=時間」で求められる。			○ 新聞記事や地図からの情報を伝え、関心を高める。	
	○ 練習問題を解く。 「小学校まで 3 km のところで土石流が発生しました。土石流が進む速さは時速 60 km です。あと何分で土石流が小学校に到着しますか。」			○ 0.1 時間は 6 分になることを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> $3 \div 60 = 0.05$ $(0.05 \times 60 = 3)$ 0.05 時間 = 3分 答え 3分 </div>			★ 土石流が発生して学校に到達するまでの時間を求めることができる。	

※土石流…山腹、谷底にある土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。

水泳運動「安全確保につながる運動」

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	D 洪水や高潮から身を守る方法を知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	体育	時数	1, 2 / 2
目 標	水着での泳ぎと比べて、着衣のまま水に入ったときの動きにくさを知るとともに、その体験により、水の事故を未然に防ぎ、また不慮の事故に遭遇したときに落ち着いて対応できるようにする。				
防災教育の視点	洪水や高潮から身を守るために、着衣のまま水の中に入ったときの特性を知る。				
指導資料					
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 着衣のまま水に入ったときの泳ぎの難しさを体験し、水の中に落ちたときの対応の仕方を身に付けよう。</p> </div>			<ul style="list-style-type: none"> ○ バディで並ぶことができるようにする。 ○ 水中で自己の安全を確保するための学習であることを確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着衣のまま水に入り、泳ぎの難しさを体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・バディを組み、一人が水の中に足から入水する。 ・プールの横をクロール、平泳ぎなどで泳ぐ。 ○ 3～5回程度を目安にした浮き沈みをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きく息を吸ってだるま浮きをした状態で、息を止めてじっとして水面に浮上する浮き沈みを続ける。 ・浮いてくる動きに合わせて両手を動かし、顔を上げて呼吸をした後、再び沈み、息を止めて浮いてくるまで姿勢を保つ浮き沈みを続ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ バディ同士でも安全が常に確保できるようにする。 ○ バディで教え合うようにさせる。 ○ 体が自然に浮いてくるまで待ってから息継ぎをすることや、首をゆっくり動かし呼吸をすることを助言する。 ○ どのように浮いたり、泳いだりするのが合理的であるか体感させる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 着衣のまま水に落ちた場合、動いたり泳いだりすることは難しい。 水の事故に遭ったときには、浮き沈みをして、呼吸を続けることが大切である。</p> </div>			<ul style="list-style-type: none"> ★ 着衣のまま水に入ったときの泳力を客観的に知ることができる。 	

図形の拡大と縮図

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	E 学校や自宅周辺の避難所・経路を知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	算数	時数	8 / 10
目標	縮図を利用して、実際の距離を求めることができる。				
防災教育の視点	縮図を利用して、避難所までの実際の距離を求めることができる。				
指導資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 平成 26 年広島市土砂災害の新聞記事（拡大） 校区の 10000 分の 1 の地図 				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 問題文を読み、問題場面を把握する。				
展開	○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 縮図を利用して、実際の直線距離を求めよう。 </div> ○ 問題場面に合う式を考え、実際の直線距離の求め方を考える。 ○ 実際の直線距離の求め方を話し合う。			○ 2 点を結ぶ直線は定規できちんとひき、地図上の長さを正確に測定できるようにする。 ○ 10000 分の 1 の縮尺では、縮図の 1 c m が実際の 10000 c m で、換算すると 100m になることを確認する。	
まとめ	○ 練習問題を解く。 「10000 分の 1 の地図を使って、自宅から避難所までの実際の直線距離を求めよう。」 ○ 次時の学習内容を確認する。			○ 新聞記事などからの情報を伝え、関心を高める。 ★ 縮図を利用して、自宅から避難所までの直線距離を求め、避難所を確かめるとともに、どのくらいの時間で避難できるか予想する。	

町の未来をえがこう「町の幸福論」

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	F 災害に対する日頃の備えについて知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	国語	時数	1 / 13
目 標	複数の資料から読み取った情報を目的に応じて自分たちの地域の未来についてプレゼンテーションを行うことができる。				
防災教育の視点	災害時にすばやく互いに助け合えるためのコミュニティ活動が必要だということを知る。				
指 導 資 料	・教科書				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の町の未来について考える。 ○ めあての確認をする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の住んでいる町がどのような町になっているか、どんな町になってほしいか話し合う。 	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 私達の未来について考え、プレゼンテーションに向けた学習計画を立てよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文を読み、学習の見通しを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・町の未来について考えてプレゼンテーションをするという学習課題を確かめる。 ○ コミュニティデザインという言葉の意味を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・人と人がつながる仕組み ・コミュニティを組織すること ・町を元気にしていこうとすること ○ 町作りに必要な取り組みについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が主体的に町作りに取り組む例 ・未来のイメージをもつ例 			<ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼンテーションがどのようなものか、実際の動画を視聴させる。 ★ 本文の具体例である東日本大震災の例から非常時にはコミュニティが重要であり、これからさらに大切になってくることを考えさせる。 ○ 具体例から何が必要か考えさせ、内容の大まかな流れを捉えさせる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「町の幸福論」を読んで自分なりの感想を書く。 ○ いろいろな資料を読み、発表に必要な情報を集める計画を立てる。 ○ 災害時には町のコミュニティによって、すばやく互いに助け合える人のつながりをつくっていかなければならないことを理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の町の課題や良い所や取り組みなどにも目を向けさせる。 ○ 近所の人をどれくらい知っているか、話したことがあるか地図を使って確かめさせる。 	

すずしい住まい方をくふうしよう

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	F 災害に対する日頃の備えについて知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	家庭	時数	3 / 3
目 標	快適な住まい方について考えたり、自分なりに工夫したりすることができるようにする。				
防災教育の視点	避難先でも電気を使わないで涼しくなる方法を考えることができる。				
指 導 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・NHK備える防災（動画で学ぶ避難生活） <暑い季節>9.10関東・東北豪雨や8.20広島市土砂災害の避難生活の写真 <寒い季節>3.11東日本大震災の避難生活の写真				
学習の展開	学習活動		指導上の留意点		
導入	○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 電力を使わないで涼しく過ごす方法について考えたり、自分なりに工夫したりしよう。 </div>		○ グループで観察したり、実験したりして調べたことをもとに、生活の中で取り組める課題を見付けるよう助言する。 ★ 避難所での生活をイメージしながら、どのようにすればより良く過ごせるのかを考えさせる。（5年で寒い季節を快適に過ごす方法を学んでいるのでそれも併せて考えられるようにする。）		
展開	○ 各自で取り組みそうな住まい方の工夫について調べたものを発表する。 ○ 避難所の写真を見て、問題点を見付ける。 ○ より良く避難所で過ごすためにはどうすればよいか話し合う。				
まとめ	○学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 快適に過ごすためには、自分たちにできることを考え、工夫することが大事である。 </div>				

洗たくをしてみよう

関連項目	Ⅱ 対処方法を考える	F 災害に対する日頃の備えについて知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	家庭	時数	3, 4 / 4
目 標	洗濯の必要性が分かり、手洗いを中心とした洗濯ができるようにする。				
防災教育の視点	避難時でも手洗いで洗濯する方法を理解し、実践することができる。				
指 導 資 料	・教科書				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 手洗いと洗濯機洗いの違いについて話し合う。			○ 洗濯機洗いと手洗いの良い点を考えさせ、違いについて話し合わせる。	
展開	○ めあての確認をする。				
	めあて 手洗いの手順にそって、洗濯をしよう。				
	○ 洗濯の手順を確認し、洗い方を確認する。 ・身支度をする ・用具を準備する ・洗剤液をつくる ・洗う ・絞る ・すすぐ ・しぼる ・干す ・片付ける			○ 布地の絵表示を確認し、絵表示に従って洗濯させる。 ○ 汚れによっていろいろな洗い方があることをおさえる。 ○ 絞り方や、すすぎ方も考えさせる。	
	○ 手順にそって手洗いで洗濯する。			○ 手洗いで落ちにくいときは、さらに固形石けんを使って洗ってみることをアドバイスする。	
	○ 災害時に洗濯機が使えなくても、手洗いで洗濯できることを理解する。			★ 手洗いは、電気を使わなくて洗濯できることが良さの一つであることをおさえ、災害時でも洗濯できることを理解させる。	
まとめ	○ 学習のまとめをする。				
	○ 洗濯をして気付いたことや感じたことをまとめる。			○ 手洗いだと汚れがひどい部分を重点的に洗うことができることに気付かせる。	

わたしたちの生活と政治

関連項目	Ⅲ 地域の防災対策を知る	C 公的援助について知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	社会	時数	2 / 7
目 標	東日本大震災発生直後の、市や県、国による災害復旧の取組について調べ、政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な役割をしていることを理解する。				
防災教育の視点	災害が発生した時の緊急対応の仕方を知る。				
指 導 資 料	・教科書				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 災害対策本部の様子を見て、どんなことが話し合われているのかを想像し話し合う。			○ 地図を見て被害の状況を確認していることや何が市民に必要なのかを確認していることなどをつかませる。	
展開	○ めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 東日本大震災が発生したとき、市や県、国は、どのような取組をしたのか考えよう。 </div> ○ 地震直後の市や県、国の取組について調べる。 (気仙沼市) (宮城県) (国) (災害救助法)			○ 教科書から気仙沼市、宮城県、国が行った取り組みについて話し合わせる。	
まとめ	○ 市や県、国の緊急対応についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめ 震災直後から、市や県、国がそれぞれ連携・協力して被災者を助けるためにすぐに動いている。また、大震災以前から緊急時に対応するための体制がとられている。 </div>			○ 「ことば」と教科書から災害救助法について話し合わせる。 ★ 市や県、国の緊急対応について、分かったことをノートまとめさせる。	

うちら“ネコの手”ボランティア

関連項目	Ⅲ 地域の防災対策を知る	C 公的援助について知る			
指導する学年	6 学年	教科・領域	道徳	時数	1 / 1
目 標	おばさんにおこられたときの麻美の気持ちを考えることを通して、勤労の意義を知り、進んで人のためになる仕事をしようとする心情を育てる。 〈C 勤労，公共の精神〉				
防災教育の視点	日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることを知る。				
指導資料	「うちら“ネコの手”ボランティア」出典「明日をめざして 道徳6」（東京書籍）				
学習の展開	学習活動			指導上の留意点	
導入	○ 写真を見て話し合う。			○ 平成 26 年広島市土砂災害の避難所の写真を提示する。	
展開	○ 資料「うちら“ネコの手”ボランティア」を聞いて話し合う。 ・小学校へ避難してきたとき、麻美はどんな気持ちだったでしょうか。 ・おばあさんに怒られたとき、麻美はどんなことを考えたでしょうか。 ・麻美は、どんな気持ちでクッキーを持って仮設住宅へ行こうとしたのでしょうか。			○ 麻美のつらい状況に気持ちに共感させる。 ○ 麻美がいやな思いをしてまでも、仕事を続けようとする様子をしっかりと押さえる。 ○ 被災者が引っ越した後までかかわろうとする麻美の心情に共感しながら、じっくりと考えさせるためにワークシートに書かせる。 ★ 麻美の人のために役立つ気持ちに共感することができたか。	
終末	○ 自分の経験を振り返る。 ・学校や家で、みんなはどんな気持ちで仕事をしていますか。 ○ 教師の話聞く。			★ 自分の経験を振り返り、価値に気付くことができたか。 ○ 「私たちの道徳」P.154 を活用する。	